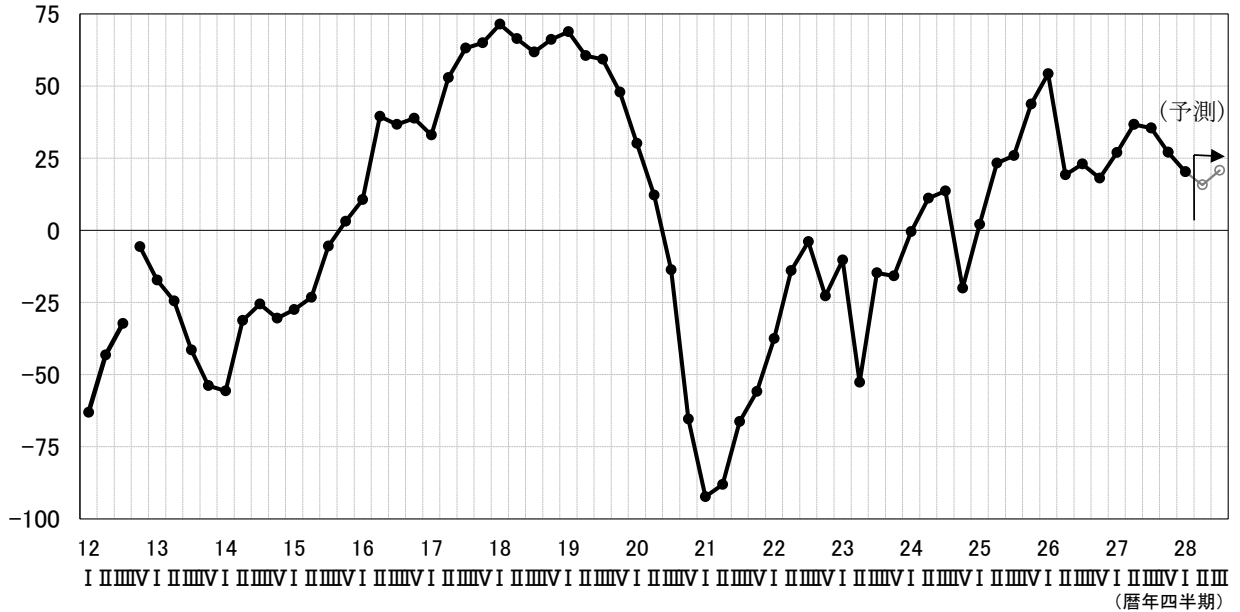


## 中部圏の景況感の現状（1～3月期）と見通し（7～9月期まで）

### 〔今回のポイント〕

#### 中部圏の景況判断



1～3月期の中部圏の景況判断(「良い」－「悪い」社数構成比)は、3期連続で悪化し、20.3(前期比▲6.7ポイント)となった。前回予測も下回った。

項目別では、業績判断が2期連続で悪化した一方で、設備投資計画判断、機械設備水準判断は2期ぶりに改善した。

業種別では、製造業の業績判断D. I. が3期ぶりに改善した一方で、建設業が悪化に転じた。

景況判断の先行きについては、中国・新興国経済への根強い懸念や為替や株価の懸念の高まりなどから、4～6月期は悪化するものの、7～9月期は改善するものと見られている。

為替相場については、円高基調を反映して「企業が想定するレート」が円高方向に振れ、「適切な水準」と同一となった。

原油価格(通関CIF)については、足元の相場を反映して、「企業が想定する価格」の平均が\$45.7と、前回調査よりも大きく下落した。

わが国の景気の現状については「緩やかな拡大」が大幅に減少し、「概ね横ばい」、「緩やかに後退」が増加した。

#### 〔調査の概要〕

◎調査時期：平成28年2月8日～2月23日

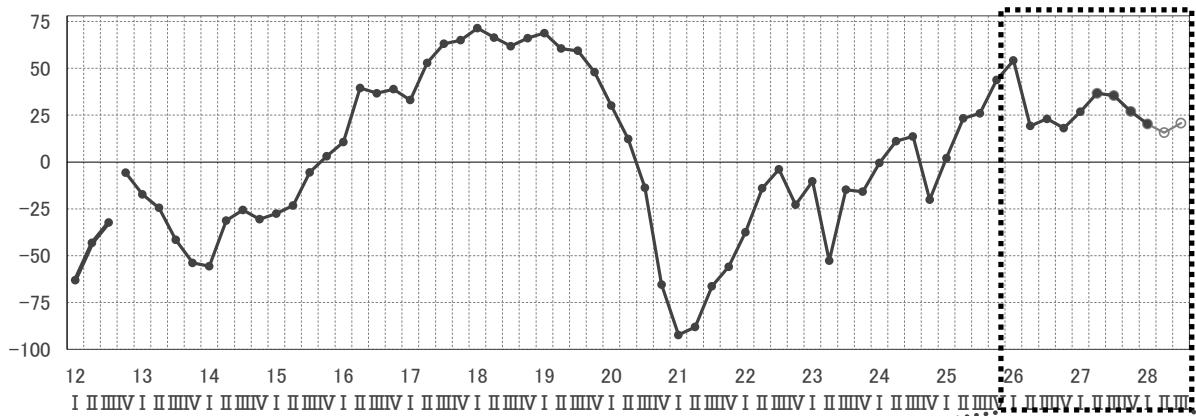
◎対象：法人会員代表者等

◎回答：238社（回答率:35.4%、対象672社）

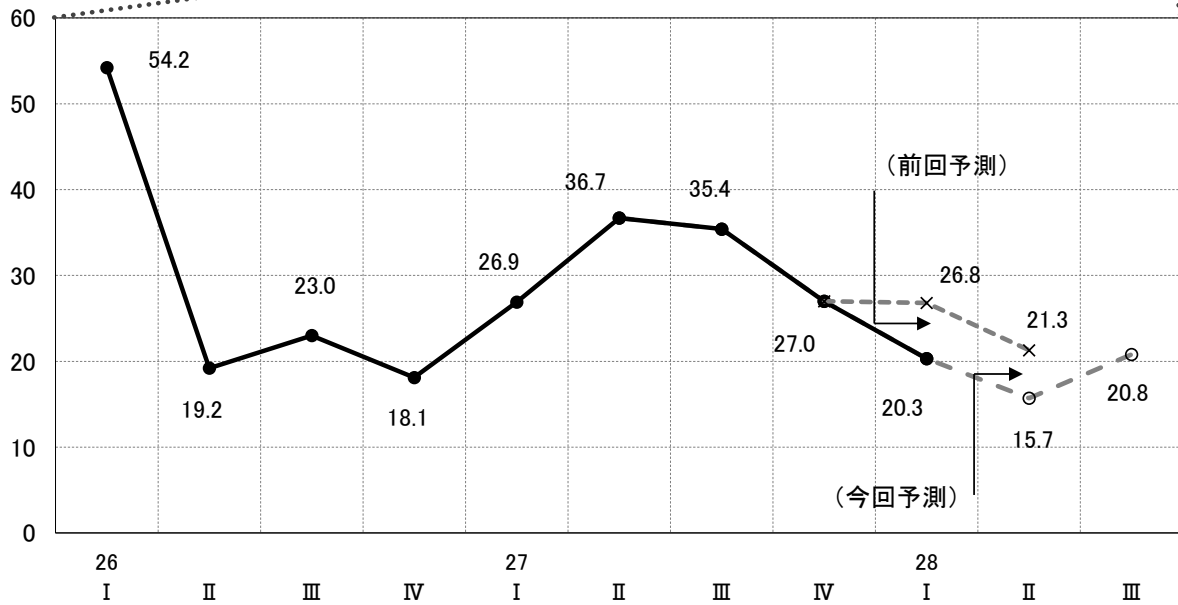
# 中部圏の景況感

## (1) 中部圏の景況判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



### 【最近の動き】



[現状] 中部圏の景況判断は、3期連続して悪化した。

[今後] 来期は悪化するものの、再来期は改善するものと見られている。

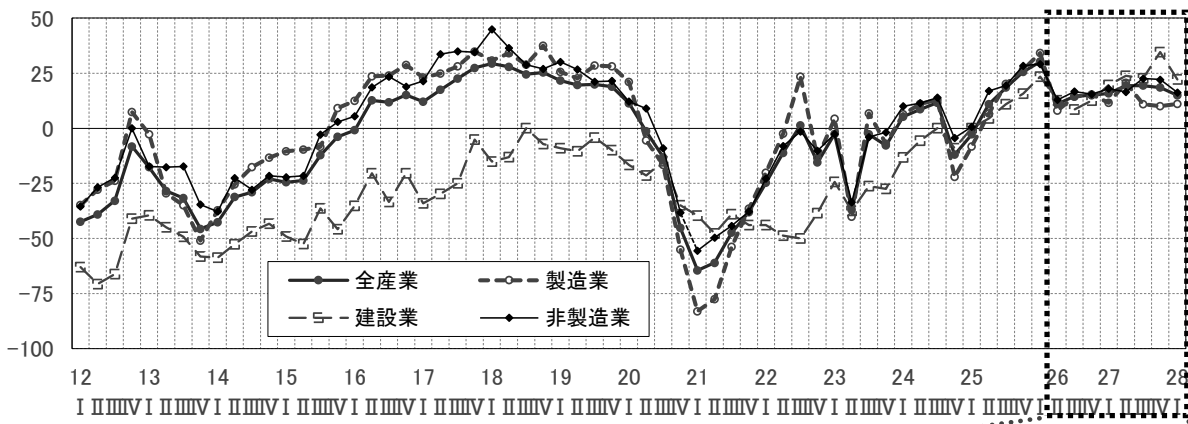
### 【景況判断(D. I.)の内訳】

	1 : 悪い	2 : さほど良くない	3 : 良い	D.I.(良い-悪い)
[12月]	2.4%	68.2%	29.4%	27.0
[今回]	4.0%	71.7%	24.3%	20.3

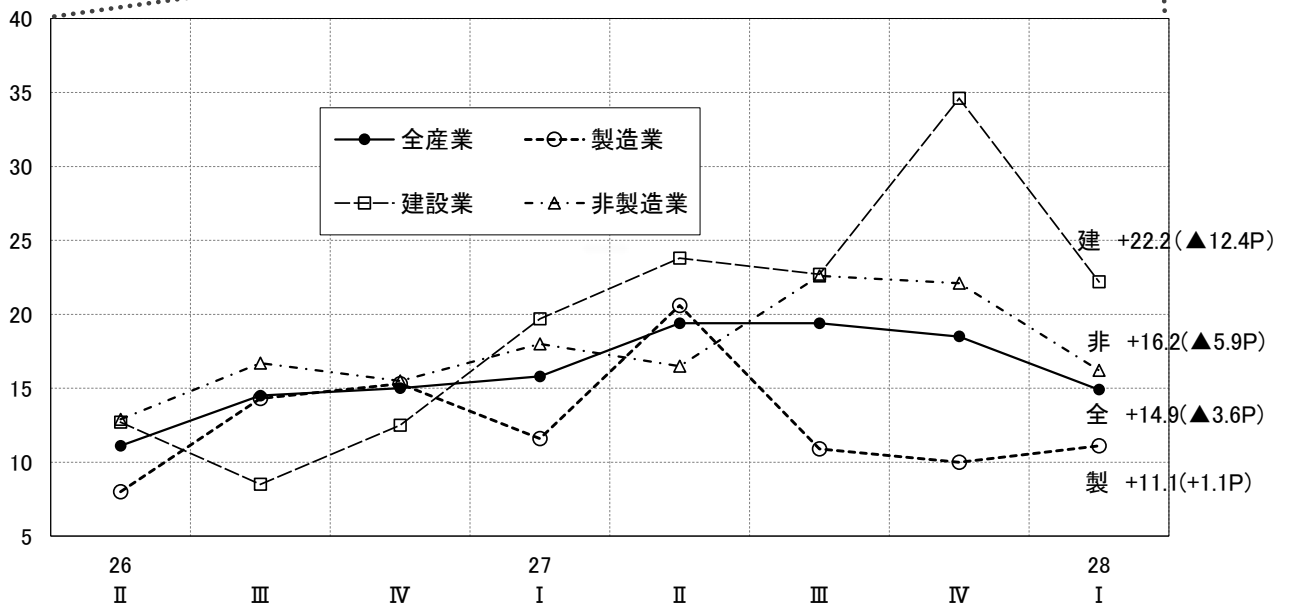
- 6.7P

(2) 業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



業績判断は、全産業で2期連続で悪化した。  
業種別では、製造業が3期ぶりにわずかに改善した一方で、建設業は大幅な悪化に転じ、非製造業は3期連続で悪化した。

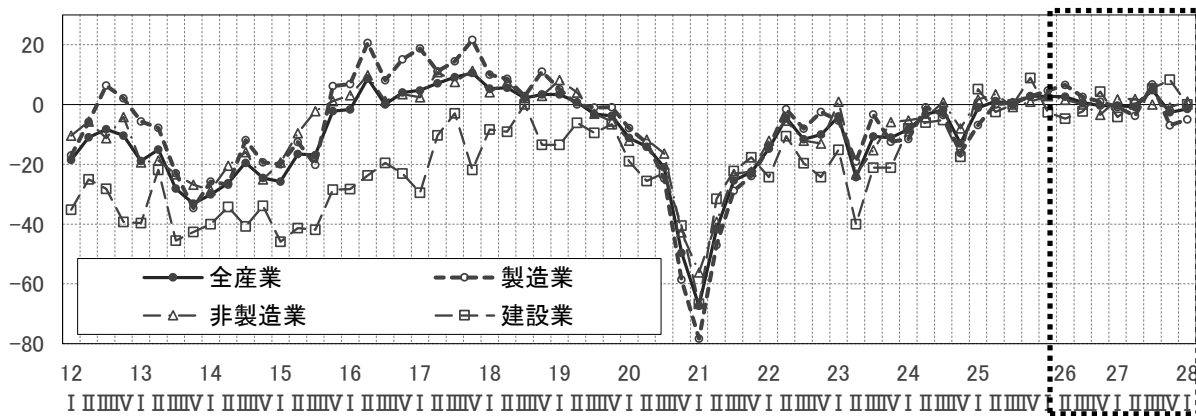
【業績判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1 :悪い 6.5%	2 :さほど良くない 68.5%	3 :良い 25.0%	D.I.(良い-悪い) 18.5
[今回]	1 :悪い 10.6%	2 :さほど良くない 63.9%	3 :良い 25.5%	D.I.(良い-悪い) 14.9

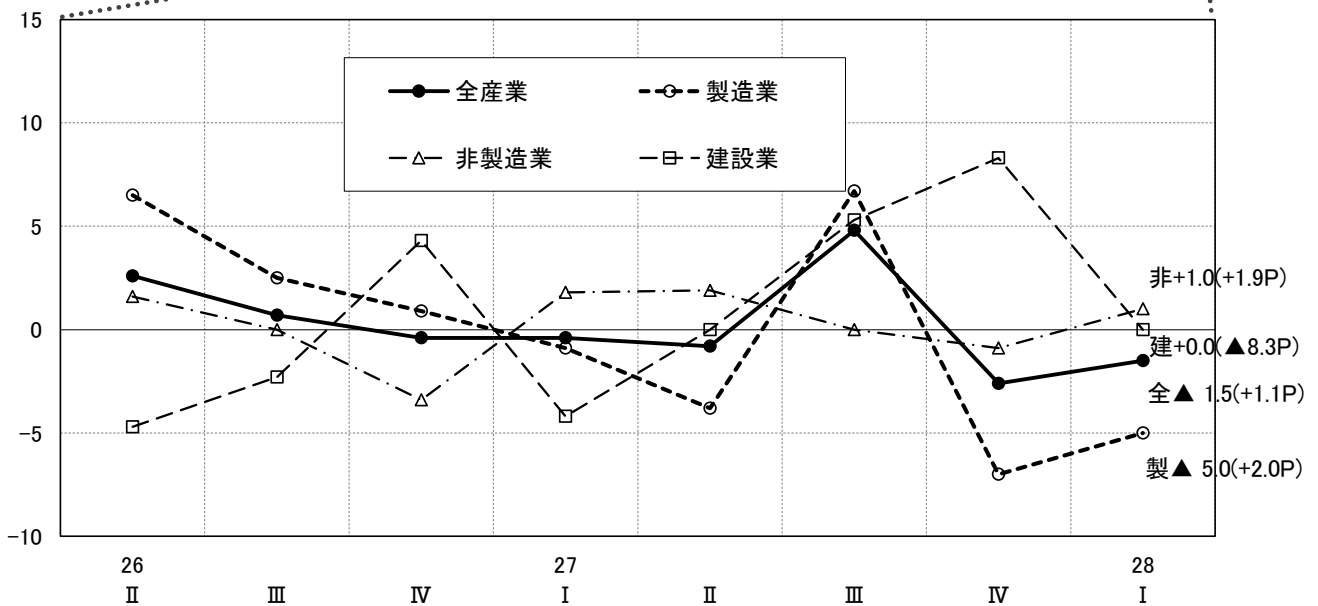
- 3.6P

(3) 設備投資計画判断

[現況判断:「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



設備投資計画判断は、全産業で2期ぶりにわずかに改善した。  
業種別では、建設業が大幅に悪化した一方で、製造業、非製造業は改善に転じた。  
「変わらず」が依然として9割近くを占めており、「縮小・繰延べ」、「積増し」ともに割合は小さい。

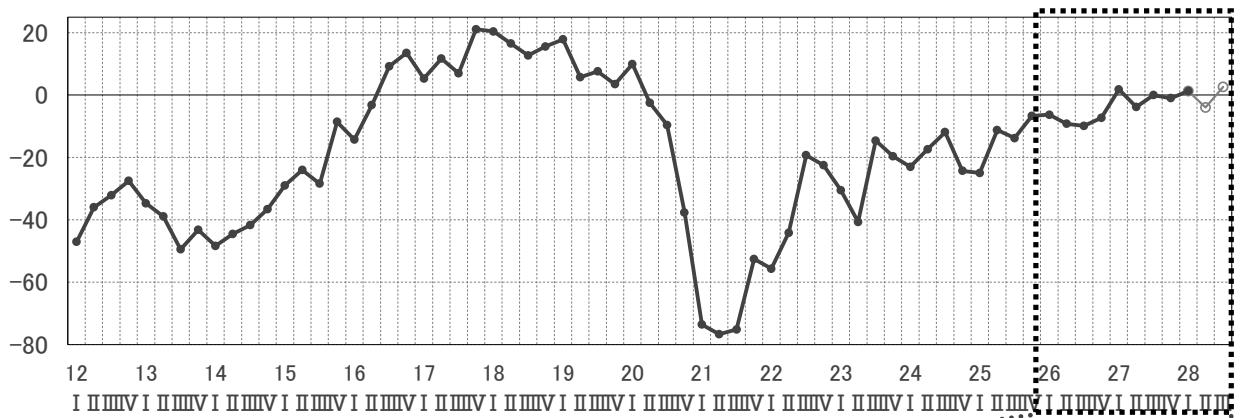
【設備投資計画判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	6.4%	89.8%	3.8%	▲ 2.6
[今回]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	7.0%	87.6%	5.5%	▲ 1.5

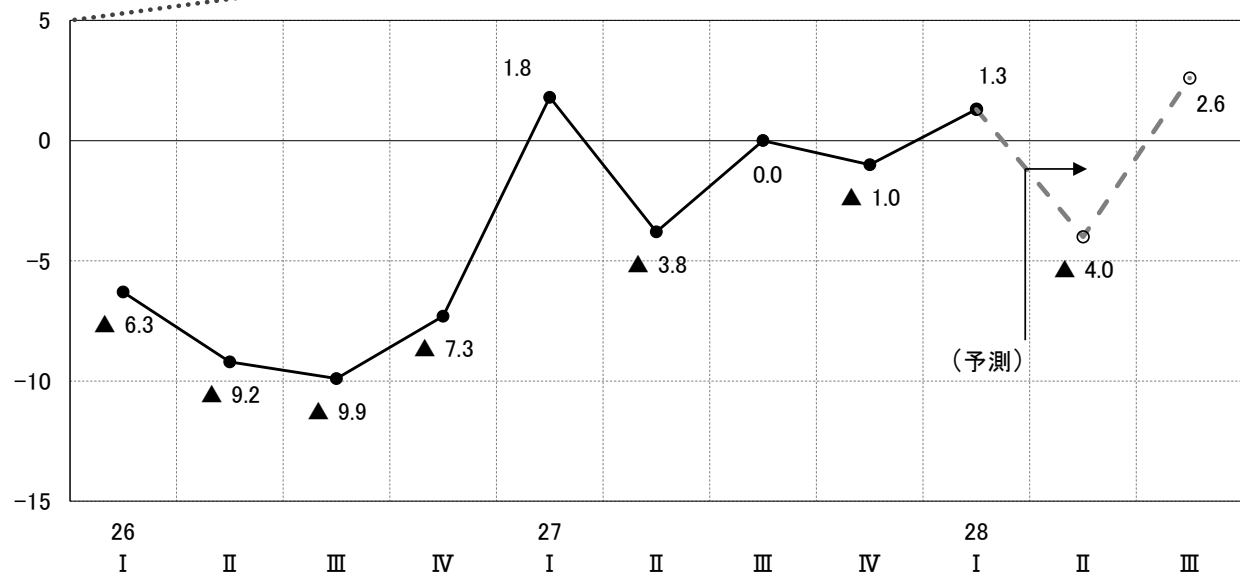
+ 1.1P

(4) 機械設備水準判断 (製造業)

[現況判断・見通し: 「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] 機械設備水準判断は、2期ぶりの改善となった。

[今後] 来期は悪化するものの、再来期は改善するものと見られている。

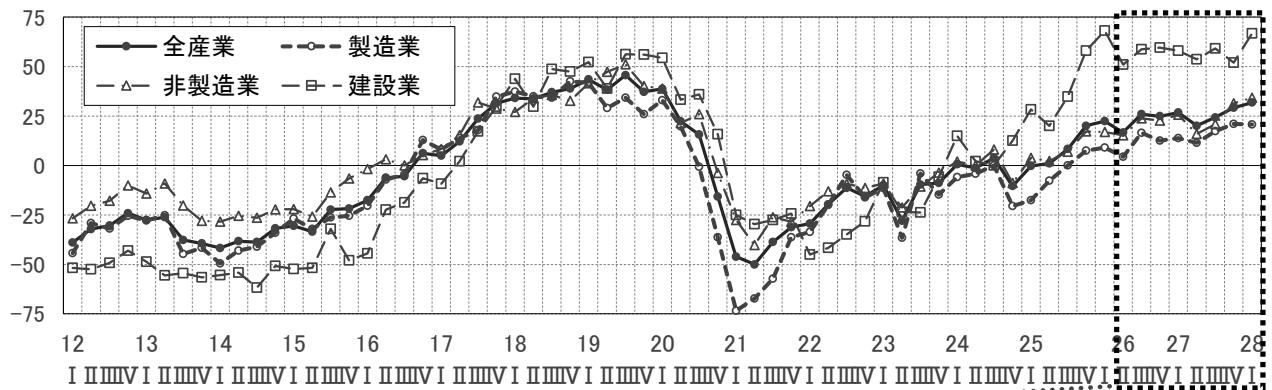
【機械設備水準判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1 : 過剰 12.2%	2 : 適正 77.1%	3 : 不足 11.2%	D.I.(不足-過剰) ▲ 1.0
[今回]	1 : 過剰 11.5%	2 : 適正 75.6%	3 : 不足 12.8%	D.I.(不足-過剰) 1.3

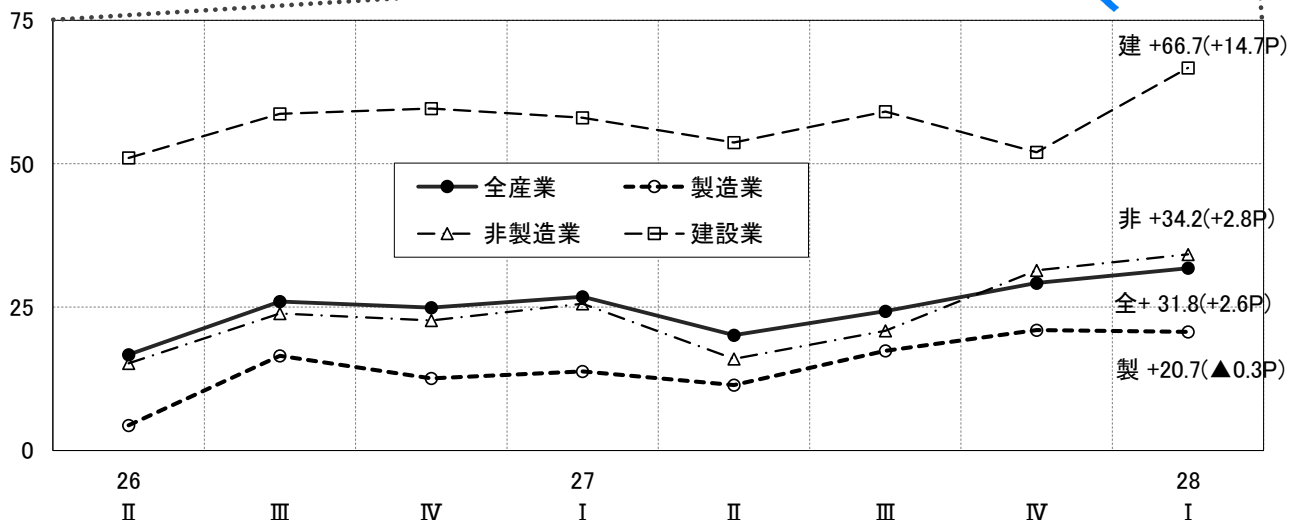
+ 2.3P

(5) 雇用判断

[現況判断:「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



人手不足感は、全産業で3期連続で上昇した。業種別では、製造業のみ微減であったが、非製造業で3期連続の上昇、建設業で上昇に転じた。

【雇用判断(D. I.)の内訳】

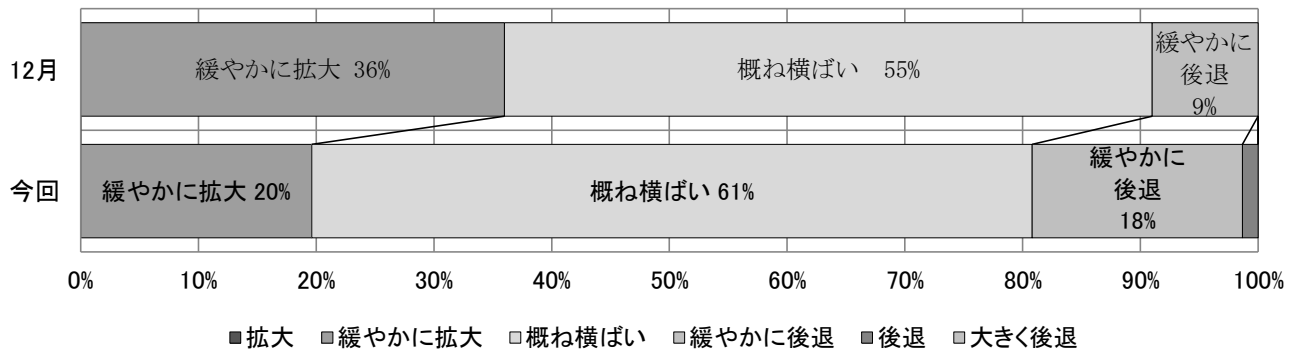
全産業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 2.6P
		3.7%	63.4%	32.9%	29.2	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		2.8%	62.6%	34.6%	31.8	
製造業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	- 0.3P
		6.0%	67.0%	27.0%	21.0	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		4.9%	69.5%	25.6%	20.7	
非製造業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 2.8P
		2.5%	63.6%	33.9%	31.4	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		1.8%	62.3%	36.0%	34.2	
建設業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 14.7P
		0.0%	48.0%	52.0%	52.0	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		0.0%	33.3%	66.7%	66.7	

フォーカス①

日本経済の現状認識と経済政策について

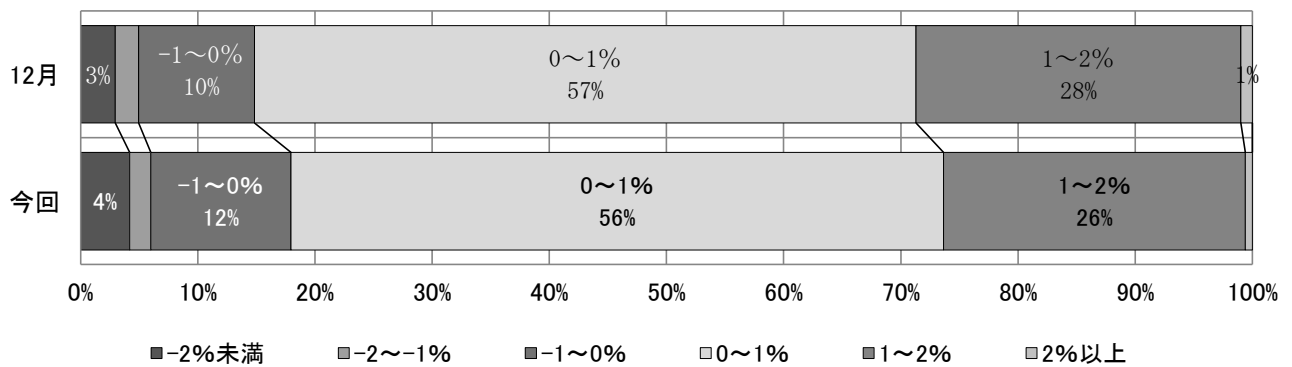
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気の現状について



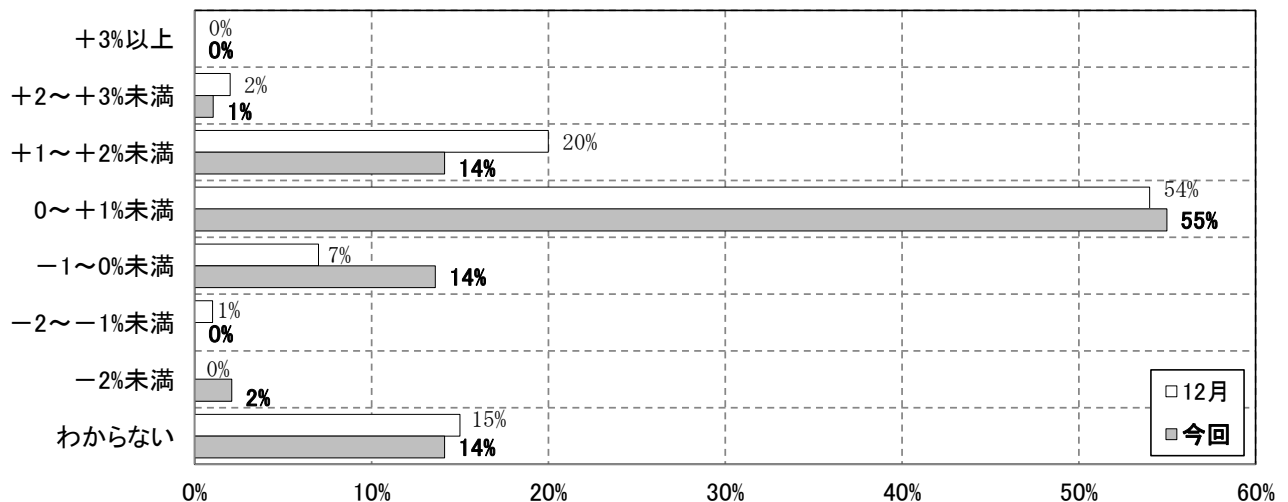
「緩やかに拡大」が大幅に減少する一方、「概ね横ばい」、「緩やかに後退」が増加した。

(2) 平成27年度の経済成長率（GDP）見通しについて



「1~2%以上」の割合が前回に引き続き減少し、1%未満の割合が増加した。

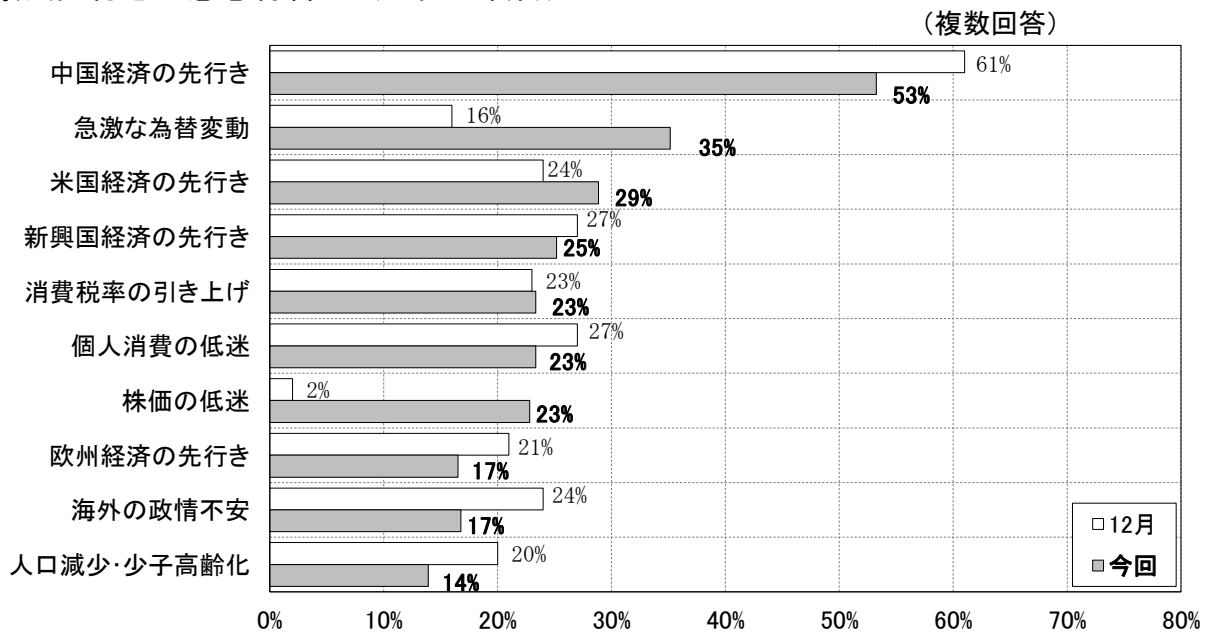
(3) 平成27年度末の物価見通しについて



+1%以上の物価上昇率を予想する回答が減少した一方で、「0~+1%未満」、「-1~0%未満」の物価上昇率を予想する割合が増加した。

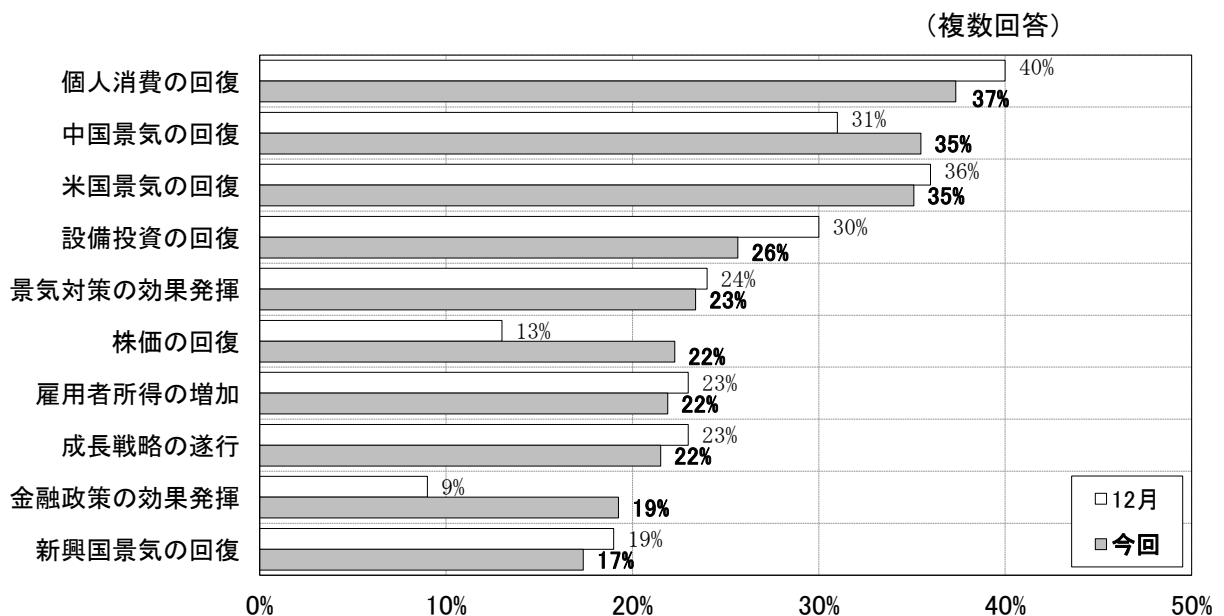
## 2. 景気先行きの懸念材料・期待材料と経済政策への期待について

### (1) 景気先行きの懸念材料 (上位10項目)



「中国経済の先行き」、「急激な為替変動」、「米国経済の先行き」、「新興国経済の先行き」への懸念が上位を占めた。「株価の低迷」、「急激な為替変動」、「米国経済の先行き」を懸念する企業が増加した。

### (2) 景気先行きの期待材料 (上位10項目)



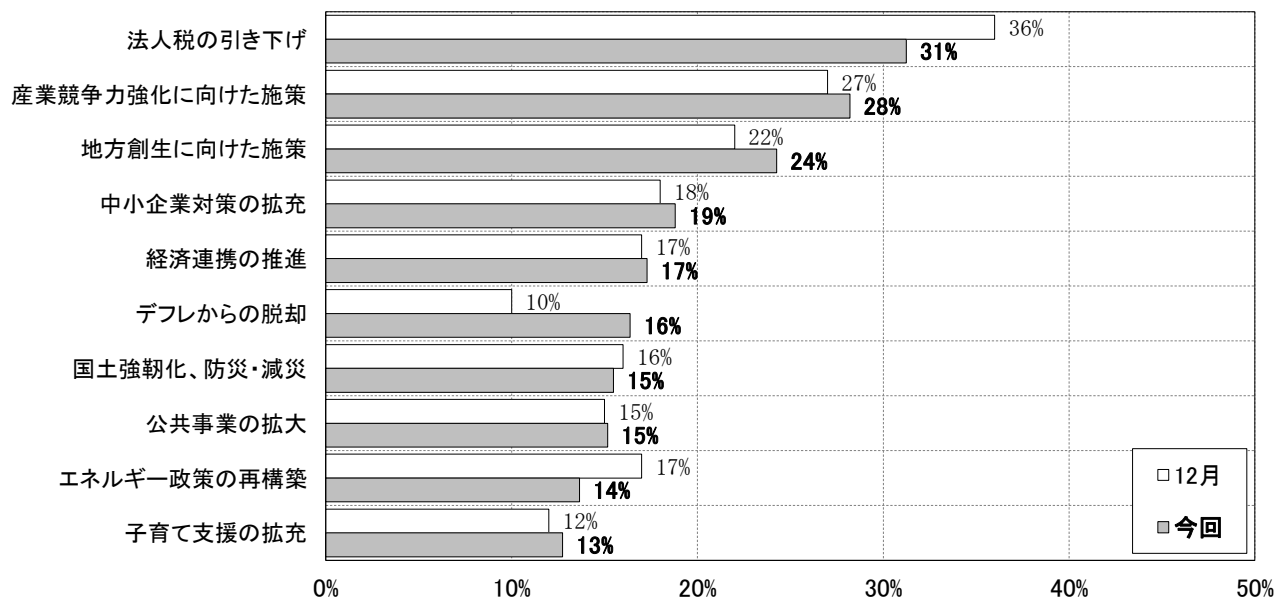
「個人消費の回復」への期待が最も多く、次いで「中国景気回復」、「米国景気回復」、「設備投資の回復」に対する期待が上位を占めた。

また、「金融政策の効果発揮」、「株価の回復」、「中国景気回復」に期待する企業が増加した。



(3) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて (上位10項目)

(複数回答)

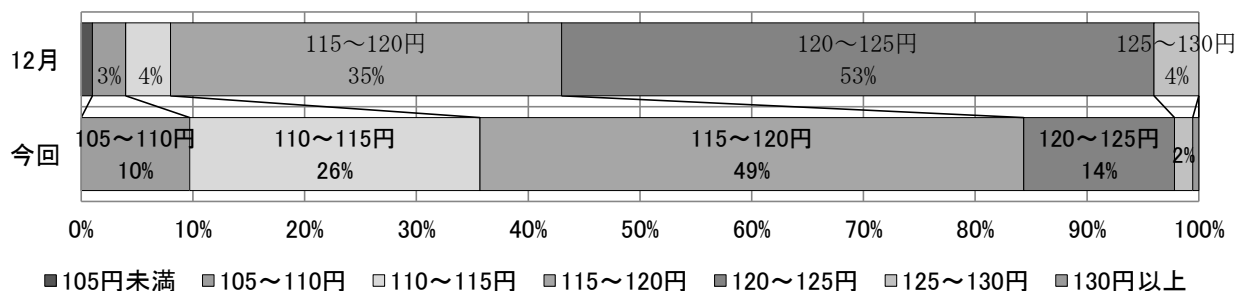


「法人税の引き下げ」、「産業競争力強化に向けた施策」、「地方創生に向けた施策」への期待が上位を占めた。

また、「デフレからの脱却」、「地方創生に向けた施策」などに期待する企業が増加した。

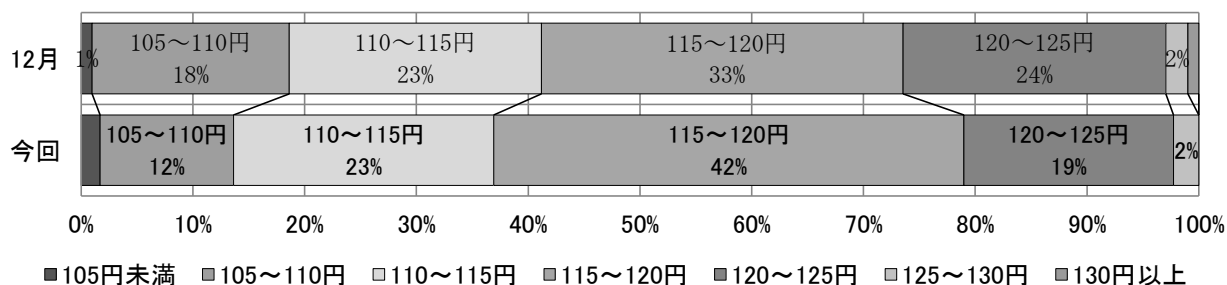
## フォーカス② 為替レートについて

### (1) 平成27年度下期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



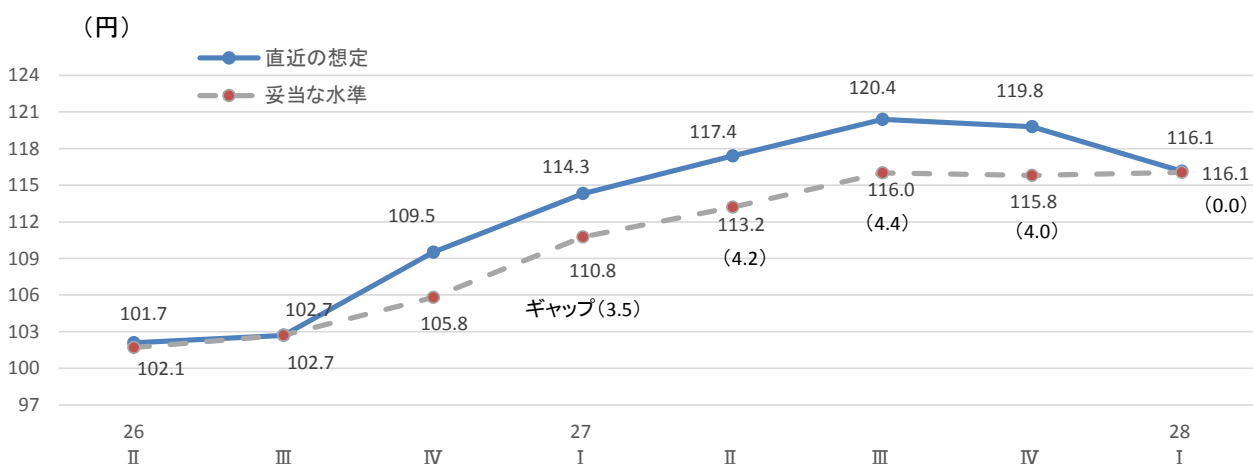
「120～125円」が大幅に減少した一方で、「115～120円」、「110～115円」が大幅に増加し、「120円未満」との回答が8割を上回った。

### (2) 為替レートの妥当な水準 対ドル・円レート



「115～120円」が大幅に増加し、前回と比べて120円以上を妥当とする回答は減少した。

### (3) 業績予想の前提レートと妥当な水準の推移



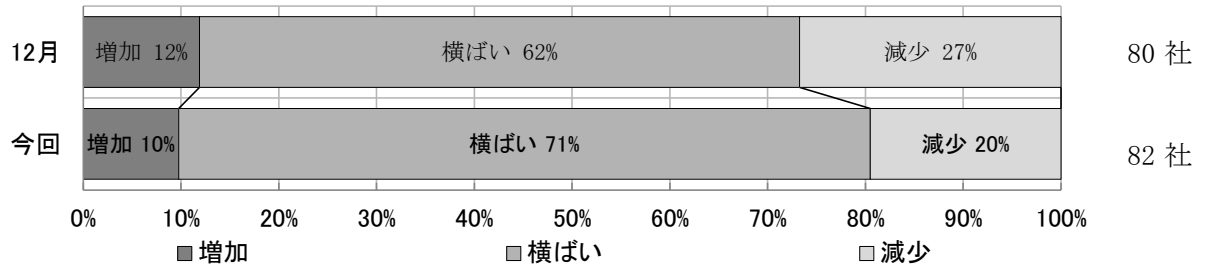
「業績予想の前提レート」が円高方向に振れ、「妥当な水準」とのギャップは無くなった。

(注) 数値は単純平均値

## フォーカス③ 輸出の増減について

### (1) 貴社の輸出の増減について（輸出を行う企業のみを対象）

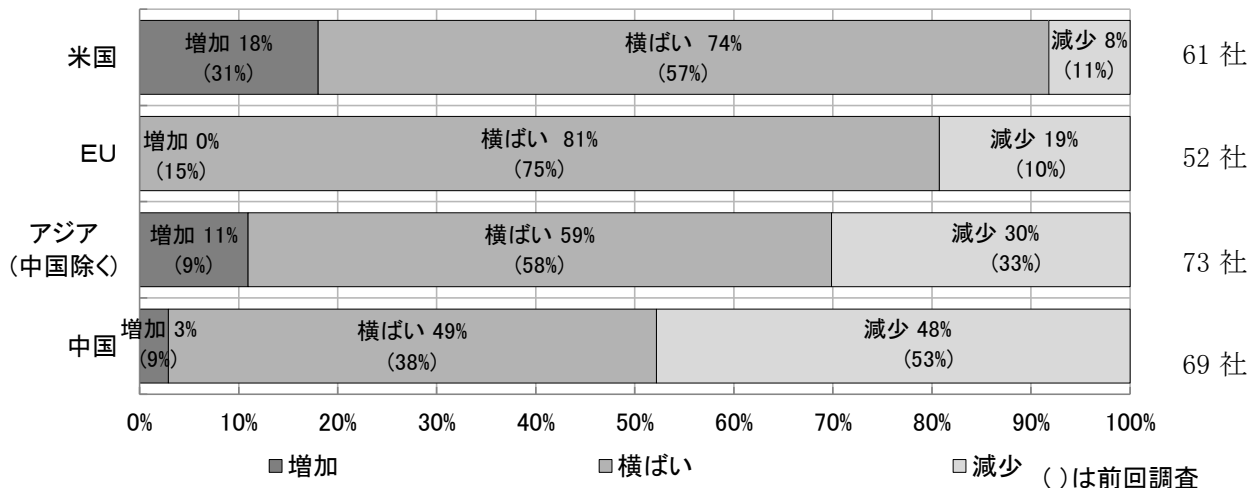
(回答社数)



「増加」が減少した一方で、「横ばい」が増加し、全体の7割を占めた。

### (2) 地域別輸出の増減

(回答社数)

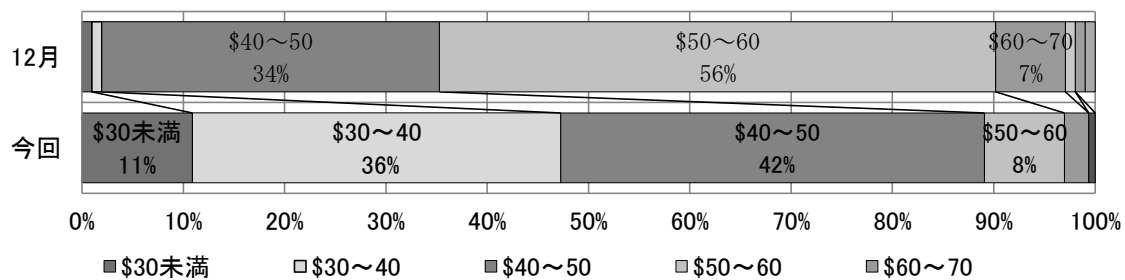


全地域で「横ばい」が最も多く、特に米国向けで大幅に増加した。

EU、アジア、中国向けは「横ばい」の回答が増加しており、EU向けは「減少」の回答が増加し、「増加」がゼロとなった。

## フォーカス④ 原油価格について

### (1) 平成27年度下期の業績予想の前提 原油価格〔通関（C I F）〕



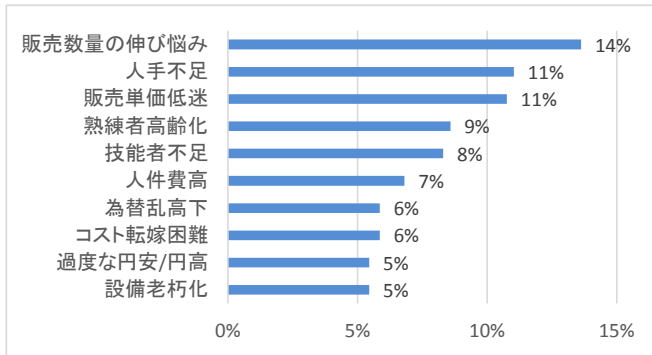
「\$60～70」、「\$50～60」は大幅に減少し、「\$30～40」、「\$40～50」が増加した。前回と比較し、予想価格は一段と下落している。

(参考)単純平均値 今回: \$45.7 前回: \$57.0

## フォーカス⑤ 経営上の課題について

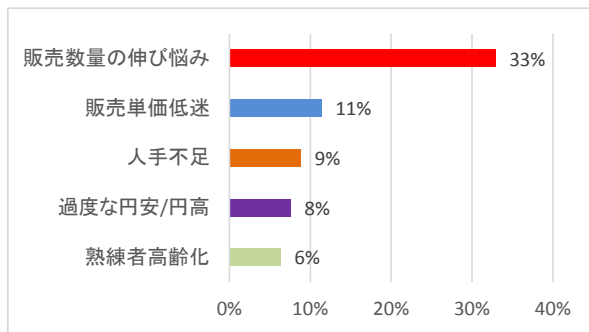
(1) 経営上の課題に該当するもの（全産業 上位10項目）

（複数回答）

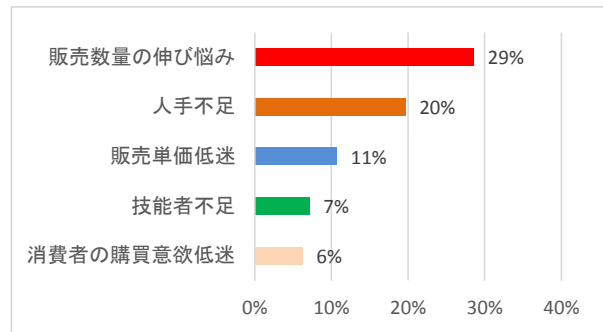


(2) そのうち最も大きな課題（上位5項目）

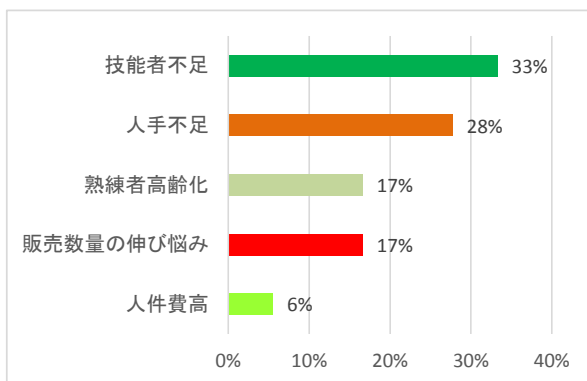
・製造業



・非製造業



・建設業



経営上の課題は、「販売数量の伸び悩み」、「人手不足」、「販売単価低迷」の順に多い。そのうち最も大きな課題については、製造業、非製造業で「販売数量の伸び悩み」、建設業では「人手不足」に代わり「技能者不足」が最多となっている。また、製造業では「過度な円安/円高」が前回の「コスト転嫁困難」に代わって上位5項目に入った。

## <参考> 時系列データ

		平成27年				平成28年
		I (1-3月)	II (4-6月)	III (7-9月)	IV (10-12月)	I (1-3月)
<b>中部圏の景況感</b>						
景況判断(D. I.)		26.9	36.7	35.4	27.0	20.3
業績判断(D. I.)	全産業	15.8	19.4	19.4	18.5	14.9
	製造業	11.6	20.6	10.9	10.0	11.1
	非製造業	18.0	16.5	22.6	22.1	16.2
	建設業	19.7	23.8	22.7	34.6	22.2
設備投資計画判断(D. I.)	全産業	-0.4	-0.8	4.8	-2.6	-1.5
	製造業	-0.9	-3.8	6.7	-7.0	-5.0
	非製造業	1.8	1.9	0.0	-0.9	1.0
	建設業	-4.2	0.0	5.3	8.3	0.0
機械設備水準判断(D. I.)		1.8	-3.8	0.0	-1.0	1.3
雇用判断(D. I.)	全産業	26.8	20.1	24.3	29.2	31.8
	製造業	13.8	11.4	17.4	21.0	20.7
	非製造業	25.6	16.0	20.9	31.4	34.2
	建設業	58.0	53.7	59.1	52.0	66.7
<b>景気の現状とGDP見通し(フォーカ①)</b>						
景気の現状	拡大	0%	1%	0%	0%	0%
	緩やかに拡大	55%	64%	64%	36%	20%
	概ね横ばい	41%	34%	32%	55%	61%
	緩やかに後退	4%	1%	5%	9%	18%
	後退	0%	0%	0%	0%	1%
	大きく後退	0%	0%	0%	0%	0%
GDP見通し	-2%未満	3%	3%	1%	3%	4%
	-2%~-1%未満	3%	0%	2%	2%	2%
	-1%~0%未満	15%	4%	4%	10%	12%
	0%~1%未満	45%	41%	45%	57%	56%
	1%~2%未満	29%	47%	46%	28%	26%
	2%以上	4%	5%	3%	1%	1%
<b>為替レート(フォーカ②)</b>						
業績予想の前提(対ドル・円レート)						
	85円未満	-	-	-	-	-
	85~90円未満	-	-	-	-	-
	90~95円未満(平成26年IV期は95円未満)	-	-	-	-	-
	95~100円未満	-	-	-	-	-
	100~105円未満(平成27年I、II期は105円未満)	2%	0%	1%	1%	0%
	105~110円未満	20%	6%	2%	3%	10%
	110~115円未満(平成26年I期からIII期までは110円以上)	23%	14%	5%	4%	26%
	115~120円未満	51%	56%	29%	35%	49%
	120~125円未満(平成26年IV期は120円以上)	3%	22%	54%	53%	14%
	125~130円未満	0%	1%	9%	4%	2%
	130円以上	0%	0%	0%	0%	1%
想定レートと妥当な水準(単純平均値 円/\$)						
	想定レート	114.3	117.4	120.4	119.8	116.1
	妥当な水準	110.8	113.2	116.0	115.8	116.1
<b>輸出の増減(フォーカ③)</b>						
輸出の増減	増加	22%	19%	16%	12%	10%
	横ばい	68%	68%	68%	62%	71%
	減少	10%	13%	16%	27%	20%
米国	増加	40%	27%	33%	31%	18%
	横ばい	53%	63%	64%	57%	74%
	減少	7%	11%	3%	11%	8%
EU	増加	14%	16%	15%	15%	0%
	横ばい	73%	74%	77%	75%	81%
	減少	12%	10%	7%	10%	19%
アジア(除く中国)	増加	18%	17%	13%	9%	11%
	横ばい	63%	63%	63%	58%	59%
	減少	19%	20%	25%	33%	30%
中国	増加	11%	13%	12%	9%	3%
	横ばい	66%	61%	50%	38%	49%
	減少	23%	27%	38%	53%	48%